

# 玄洋社関係史料の紹介

石瀧 豊美

第9回

## 福岡表警聞懐旧談 (四)

◇ ◇

秋の乱との同調に至る事情が語られる。明治九年末の頭山満、箱田六輔らの捕縛は政府密偵の挑発に乗ったものと言われており、その密偵として具体的に石塚清武の名を挙げている。また前原の同志として横山邦彦が同行したとする。「玄洋社史」では、この二人をそれぞれ揖(指)宿(辰次)、奥平謙輔としていて食い違ふ。

なお、文中、堅忍社は堅志社の誤り。また、高場乱は博多瓦町で生まれ、後に那珂郡住吉村字人參畑に塾を開いたもので、このあたり本文の表記は正確ではない。高場が広瀬淡窓(亀井南冥・昭陽の弟子)に学んだ事実はなく、実際には昭陽の子陽洲に学んだのである。

◇ ◇

明治丁丑 福岡表警聞懐旧談 上

清津野生編述

第二回(続き)

爰に博多瓦町字人參畑に高場乱と呼べる女丈夫あり。元來眼科医にありて、其懐抱洒落、其志気卓犖にして、曾て日田表広瀬の塾に雪鷲し、恰く経史を獵渉し、殊に易学に精し。世評平尾山の野村望東と伯仲視せられたり。人參畑に私塾を設けて地方の青年者を集め、教導薫陶す。

又越知彦四郎、久光忍太郎、村上彦十、舌間慎吾、川越庸太郎、吉田新太郎、(軀次郎の実弟)、松本俊之助、佐々木彦四郎、塩川満、平岡浩太郎、興膳五六郎等を始めとして、其一累大凡一百二、三十名は別に団結を成す。之を強忍社と呼ぶ。早良郡金武村に本部を仕据へ、開塾事業を起し以て筋骨を錬ひ、士氣を磨す事を以て其主義となしたりき。

|   |   |  |   |   |
|---|---|--|---|---|
| <p>建設コンサルタンツ<br/>建設事業の計画・調査・測量・設計・施工管理</p> <p><b>ジーアンドエス・エンジニアリング株式会社</b></p> <p>代表取締役 花田 勲</p> <p>九州支社 福岡市博多区東比恵三丁目二四一〇<br/>〒八二二 電話(092)48113100<br/>本社 東京都杉並区高円寺南一丁目三三〇<br/>〒一六六 電話(03)537815800<br/>営業所 千葉浦和・神奈川・山口・佐賀・北九州・大分・長崎</p> | <p>地質・土質コンサルタント</p> <p><b>五代産業株式会社</b></p> <p>取締役会長 妹尾 憲介<br/>取締役社長 縄田 智行</p> <p>福岡市中央区舞鶴二丁目四番二四号玄洋ビル<br/>電話(092)771-7465</p> | <p>ビル総合管理</p> <p>株式会社 <b>エニジー</b></p> <p>会長 高野 嘉兵衛<br/>社長 林 憲司</p> <p>福岡市中央区天神四丁目七番一七号<br/>電話(092)771-9515</p> | <p><b>教育開発株式会社</b></p> <p>会長 穴井 毅<br/>代表 村上 義三<br/>社長 一守 和雄</p> <p>福岡市西区周船寺徳永五四五―<br/>電話(092)806-2281</p> | <p>療人 原 土井 病院</p> <p>学法人 原学園 原看護専門学校</p> <p>理事長 原 寛</p> <p>〒813 福岡市東区青葉六丁目四〇番八号<br/>電話 代表092(691)3881</p> |
|---|---|--|---|---|